

2014年

瀬戸内海国立公園指定80周年
道後温泉本館建設120周年
四国八十八ヶ所霊場開創1200年



四国八十八ヶ所霊場

弘法大師修行の地、四国八十八ヶ所霊場は、日本各地や海外から大勢の人々が「お遍路さん」となつて訪れる。性別や年齢や宗派を問わず最も親しまれている霊場。開創は、815年と伝えられており2014年は開創1200年の吉祥の年にあたる。



道後温泉本館

道後温泉本館(こうごんせんほんかん)は、道後温泉の中心にある共同浴場で温泉街のシンボル。愛称は坊っちゃん湯。1884年、道後湯之町の初代町長として伊佐庭如矢(いさにわゆきや)が老朽化した道後温泉を改築。伊佐庭町長は、自ら無給とし、その給料分を温泉の改築費用に充てた。棟梁に城大工を起用し建築し



瀬戸内海国立公園

瀬戸内海国立公園は、1934年3月16日に雲仙や霧島とともに日本で最初に国立公園の一つとして指定された。陸域と海域を含めると日本一広大な国立公園。瀬戸内海国立公園の最大の特徴は、大小約1000の島々で形成された内海多島海景观。また、島々の段々



お互いに磨き上げを誓う野志市長と森村氏(ポスターには森村氏直筆の句が記された)

第2回瀬戸内・松山写真俳句コンテストの写真俳句コンテストのイベント&表彰式が3月16日に松山市の松山市立子規記念博物館4階講堂で開催された。主催は、松山市、朝日新聞社、朝日カルチャーセンター。同コンテストは、写真俳句を通して、俳聖・正岡子規

第2回瀬戸内・松山写真俳句コンテスト

(英語)89句と国井いつき氏(俳人)、山口希希子氏(俳句編集者)、キム・チャンと氏(俳句マガジン「00年俳句計画」編集長)の各氏も出席した。森村誠一氏の講演会を開催した。写真俳句は「写真」と「俳句」を組み合わせた新しい表現世界のこと。作家・森村誠一氏が提唱している。「写真が俳句のイメージを

間、自由句部門(お題でその写真が生きてくるといふ効果で表現の幅が広がる。デジカメや携帯電話が普及し、気軽に写真を撮る機会が増えていく中、写真俳句はより身近な表現手法として注目されている。同イベントには、夏



おもてなし日本一のまちを宣言

愛媛県の松山商工会議所、瀬戸内・松山構想推進会議、松山市は、3月25日に、「おもてなし日本一のまち宣言」を行った。松山市が2014年に向けて「おもてなし日本一」を目指す。旅行商品の造成やトツプセールスをはじめ、積極的な営業活動を展開し、大手旅行会社の送客キャンペーンや大

ディスカバーウエスト特別講座「四国遍路発祥伝説の札所 石手寺 特別講座」

約1200年前に弘法大師が除災難のために開いた石手寺(第51番札所)は、四国遍路発祥の伝説が伝わり、「洞窟八十八ヶ所めぐり」や八十八ヶ所札所と高野山金剛峯寺の境内の砂の袋を触る「お砂撫で」ができる古刹。

特別講座では、大講堂に集合し住職による四国遍路の歴史や参拝の作法・手順などの法話を受ける。次に本堂または大師堂で本格的な参拝。四国霊場八十八ヶ所「お砂撫で」も行う。また、国宝の仁王門をはじめ、本堂、三重塔などの国の重要文化財や宝物館のほか、漱石と子規が落書きしたとされる大師堂や子規の句碑など見どころも見学できる。

4月～14年3月の土・日(1月は除く)に開催。時間は土曜15時30分～、日曜9時30分～。所要時間は約60分。料金は500円。宝物館入館とオリジナル経典解説本が付く。予約が必要(法要等により不可となる場合がある)。

DISCOVER WEST 特別講座



特別講座の様子

一愛媛県松山市一

おもてなし 日本一のまち宣言

お…温泉、お城、お遍路でおもてなし
も…物語(テーマ)でおもてなし
て…てづくりでおもてなし
な…なもし(方言)と笑顔でおもてなし
し…しき(正岡子規・四季)・漱石でおもてなし

